

(様式1)

県立高校指定校事業（令和7年度指定） 3年間計画書

学 校 名	大磯高等学校（全）	校 長 名	篠田 聡
指定名	グローバル教育研究推進校		
研究主題	豊かな人間性と社会性を身に付けるとともに、グローバル社会に求められる課題の発見と解決ができる人材を育成する。		
3年間の目標 （3年後のめざすべき姿）	○主体的・対話的で深い学びの実現 全教科において、生徒が主体的に学び、対話をとおして深い理解を得る授業を展開し、生徒一人ひとりが自ら考え、他者と協力しながら問題解決に取り組む力を養う。 ○グローバル人材の育成 全職員が協力し、グローバルな視点を持った人材を育成するための学校行事や授業を実施し、異文化理解や国際的な視野を広げる活動をとおして、生徒が世界で活躍できる力を身につける。 ○外部機関との連携強化 外部機関との連携を強化し、生徒に国際交流をはじめとする多様な機会を提供し、生徒が実社会での経験を積み、幅広い視野を持つことができるよう支援する。 ○英語教育の充実 英語教育を充実させるため、研究授業や研修をとおして、教員の指導力を向上させ生徒が英語を実践的に使いこなせるよう、効果的な指導方法を取り入れ、国際社会でのコミュニケーション能力を高める。		
3年間の 研究内容	(1) 研究主題の設定理由とこれまでの本校における取組 ①研究主題の設定理由 本校では、高い目標を持ち続け、他者との協働をとおして社会貢献につなげることができるリーダーの育成をミッションとしている。急速なグローバル化が進み、変化の激しい社会情勢において、高いコミュニケーション能力や広い視野を持ち、他者を尊重し多様な人と協働できるグローバル人材の育成は必要不可欠なため、本研究主題を設定することとした。 ②これまでの取組 ○ グローバル人材に求められる力についての情報を共有し、全職員への共通理解を図り、グローバル教育の視点を取り入れた授業を行った。また、国際交流活動として留学生との交流会を開催した。 ・「総合的な探究の時間」を活用し、テーマに沿った探究と発表を行った。 ○関係外部機関との連携を構築し、国際交流についての機会を生徒に提供を行った。 ・大磯町国際交流協会や民間企業と連携し、講演会の実施や各種フォーラムの参加をとおして、異文化理解、多文化共生や地域理解を促進し、複数名の長期留学生、短期留学生の受け入れを行った。 ○英語科の教員間で、4技能の指導や主体的に学習に取り組む態度の育成方法について共有した上で授業を行いながら、組織的に授業改善を行った。特に、スピーキングテストやポートフォリオの導入、リーディング指導を重点的に行った。 ○生徒へ国際交流のセミナー等への参加や留学等への挑戦を促し、複数名の応募が見られた。 ・GTEC を継続して実施することができ、平均スコアが前年度に比べ上昇した。 ・スピーチコンテストを1・2学年で実施し、生徒が英語を使う機会を増やすことができた。 ・2学年を対象として東京グローバルゲートウェイでの英語研修を行った。 ・オーストラリア海外研修旅行を実施した。事前学習としてイングリッシュキャンプを行った。 (2) 研究の内容 ○グローバル人材に求められる力の共有と授業への反映 職員や生徒へのアンケート調査を実施し、グローバル人材に求められる力についての理解度を測定する。また、授業観察をとおして、グローバル教育の視点がどのように授業に取り入れられているか考えた。 ○国際交流活動の実施と効果 留学生との交流会や国際交流活動に参加した生徒へのインタビューやアンケートをとおして、活動の効果を評価する。また、活動前後の生徒の異文化理解やコミュニケーション能力の変化を分析する。 ○外部機関との連携による国際交流機会の提供		

	大磯町国際交流協会や民間企業との連携活動をととして、生徒の異文化理解や多文化共生の意識が高まること。 4. 英語教育の充実と指導力向上 英語を使って多様な人々と目的に応じたコミュニケーションを図る力や四技能をさらに育成するために、外部機関と連携しながら指導力の向上を図る。 ・国際交流のセミナー等への参加を推奨する。 ・GTEC を継続して実施する。 ・英検の取得者の向上。	
	(3) 成果の検証方法及び成果指標 ・研究授業の振り返り（研究協議、生徒の授業アンケートの分析）。 ・GTEC のスコアの分析。 ・「魅力と特色づくりアンケート」「生徒による授業評価」の肯定的な回答の割合の向上。 ・英検取得率が向上しているか。	
研究計画の概要	令和7年度	○目標 ・本校のグローバル人材に求められる力の育成の全体計画や様々な取組をホームページや学校説明会等を通じて広く発信する。 ・様々な学習活動、部活動・同好会、学校行事等への参加をととして、豊かな人間性と社会性を身に付けるとともに、グローバル社会に求められる課題の発見と解決ができる人材を育成する。 ○手立て ・各教科での、グローバル人材の育成のための取組を調査、共有する。 ・前年度までの実践をもとに、国際交流事業等をさらに充実させる。 ・生徒の英検取得向上のため、本校での実施（準会場）も検討していく。
	令和8年度	○目標 ・グローバル教育全体計画の実践と振り返りを行い、持続可能な体制をつくる。 ・学校全体でグローバル教育に取り組む。 ○手立て ・前年度の振り返りや反省を参考にし、必要があれば修正しながらグローバル教育計画を実践する。 ・国際交流事業等への参加を促進するなど、生徒が自ら体験し学ぶ機会を増やす。 ・「総合的な探究の時間」を活用してテーマに沿った研究と発表を行う。 ・英語による発信力の向上をめざし、授業研究や授業改善に取り組む。
	令和9年度	○目標 ・組織的な授業改善の取組の成果検証を行う。 ・教科等横断的な授業改善の取組により、将来のグローバル社会で活躍するための、自ら考え判断し表現する力、他者を尊重し協働して課題を解決する力等を育成することができたかを振り返る。 ○手だて ・授業見学週間や研究授業を実施し、PDCAサイクルで検証する。 ・研究成果のまとめや発信を行い、本校での取組の概要及び具体的な手立てや成果と課題を広く発信する。
研究体制	研究開発グループを中心に、各教科と各学年が連携して進める取組として、総合的な探究の時間では学年団と協力ながら、課題解決の手法について具体的なモデルを提示し、教科横断的な協力体制を構築します。また、国際交流活動においても研究開発グループが主導し、各部署や学年と密に連携して行事内容を精査し、参加者にとって有意義な体験となるよう工夫する。	
その他特記事項		